



## **第 1 章 本調査研究の概要**

1. 調査研究の背景と目的
2. 本報告書の構成
3. 調査研究の手法

## 1. 調査研究の背景と目的

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されることとなった。(以下、当該大会を「東京2020大会」という。)オリンピック・パラリンピック大会は、世界最大級のスポーツの祭典であるとともに、幅広い分野で開催地に好影響をもたらすことが期待されている。

首都圏をはじめ全国の先進自治体では、スポーツ振興のみならず、外国人観光客の増加や関連イベントの開催などによる文化的・経済的な波及効果にも期待が高まっており、観光客や事前キャンプの誘致などを目指し準備する自治体が相次いでいる。

各地で取組が活発化する中、まさに大会の主催地にあり、都心近郊に位置する多摩・島しょ地域市町村においても、積極的に東京2020大会の一翼を担い、オール東京で一体となって、「史上最高のオリンピック・パラリンピック」を実現し成功に導くことが求められている。

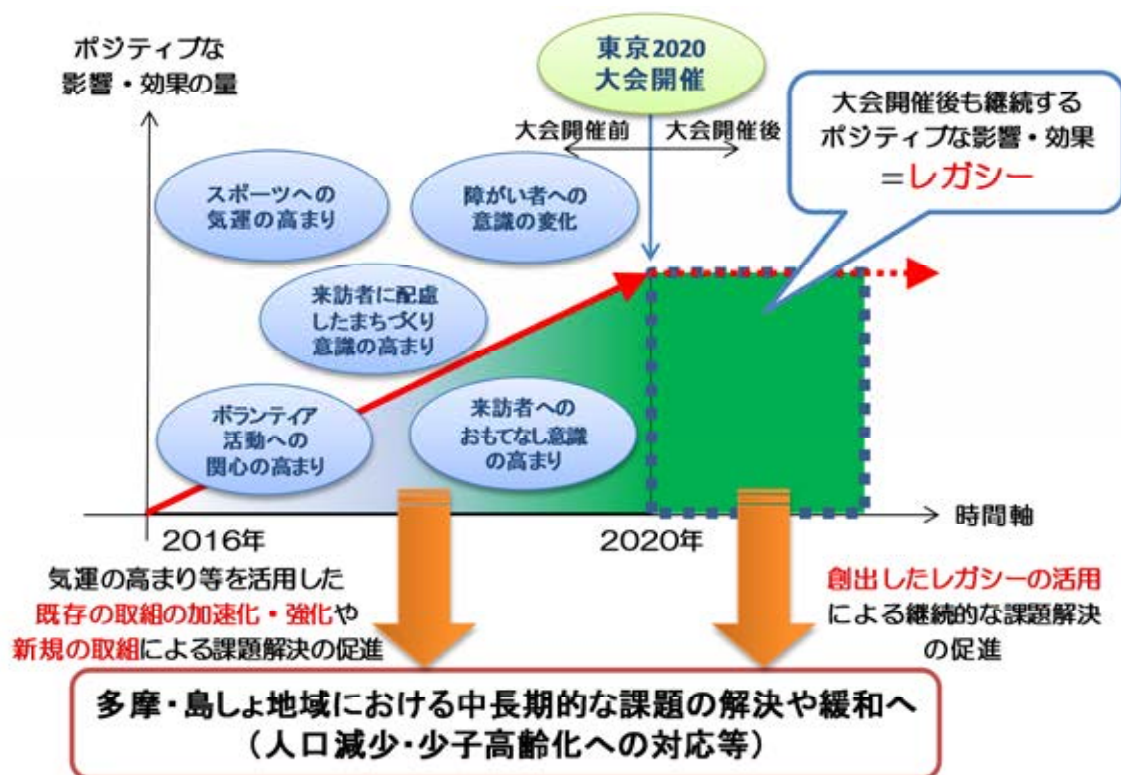
高度成長期に開催された1964年のオリンピック・パラリンピック大会は戦後の復興を印象づけるとともに、日本が先進国へとステップアップする足掛かりとしての意義が強かった。当時、大会開催に向けて建設された道路、鉄道等が現在でも使用されているように、東京2020大会においても、開催後を見据えた、未来に残る“レガシー”の創出が求められている【図表1】。1964年大会から半世紀余りが経過した東京2020大会は、少子高齢化社会、環境・エネルギー問題など、成熟社会が抱える問題を解決する先進国としての姿を示す意義が強いと言える【図表2】。

多摩・島しょ地域においても、総人口は減少に転じ、高齢化も一層進行する見込みであり、各市町村にとって東京2020大会は、地域が抱える中長期的な課題を解決する“レガシー”を積極的に創出していく絶好の機会でもある。

しかし、多摩・島しょ地域市町村の中には、「東京2020大会を契機に何かに取り組みたいが、具体的にどのような事を行えば良いのかわからない」という声も多く聞かれる。

そこで、本調査研究はこうした状況を踏まえ、東京2020大会をまたとない好機として捉え中長期的な地域の課題解決につながるレガシーを創出すべく、多摩・島しょ地域の現状や意向、特性を把握・分析した上で、そこから導出される各市町村が取り組むべき効果的かつ継続可能な実践的方策を提案するものである。

図表 1 本調査研究におけるレガシー創出とその効用イメージ



図表 2 東京 1964 大会と東京 2020 大会の比較

区分	東京 1964 大会	東京 2020 大会
課題	戦後復興と経済発展	高齢化・少子化社会、環境・エネルギー問題、地方経済の疲弊、震災復興等
目標	先進国と並ぶ経済大国	成熟社会が抱える問題を解決する先進国
レガシー	体育の日の制定、駒沢オリンピック公園・日本武道館等の建設、実業団チームの誕生（サッカー、バレーボール等）、「パラリンピック」という言葉を初めて使用、首都高速道路・東海道新幹線建設、地下鉄各種新線の開業、東京国際空港の拡張、ピクトグラムの考案、上下水道・ごみ焼却施設の整備、隅田川の浄化、民間警備業の誕生、カラーテレビの普及拡大、デジタルストップクロックの実用化等	健康志向、地域スポーツの活性化、共生社会、大会関連施設の有効活用、誰もが安全で快適に生活できるまちづくり、持続可能性の重要性（環境技術の活用、省エネルギー化、スマートエネルギー等）、伝統文化・食文化・ポップカルチャーなどの多様な日本文化の発信と継承、グローバルな人材やボランティアの確保・創出、多様性尊重、科学技術イノベーション、外国人旅行者の受入環境整備、おもてなし等

注釈) 東京 2020 大会のレガシーは「東京 2020 大会開催基本計画」よりキーワードを抽出

資料) 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会「東京 2020 大会開催基本計画」、東京都「東京都長期ビジョン～「世界一の都市・東京」の実現を目指して～」(2014年12月)より作成

## 2. 本報告書の構成

本調査研究【図表3】では、まずはじめに、東京2020大会の開催概要及び近年のオリンピック・パラリンピック大会において重視されるレガシーの概要や各大会で創出されたレガシーの傾向を整理・分析している。さらに、大会開催前にオリンピック・パラリンピックのレガシーに関する計画が初めて本格的に作成されたロンドン2012大会のレガシーを概観している。また、東京2020大会に向けた、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「TOCOG<sup>(1)</sup>」という。）や東京都等の関係主体の取組動向を整理している。これらにより、多摩・島しょ地域における東京2020大会開催の意義を分析するとともに、多摩・島しょ地域におけるレガシー創出の対象分野を設定している【第2章】。

次に、多摩・島しょ地域市町村における東京2020大会に向けた取組状況や今後の取組意向及び多摩・島しょ地域住民の大会に対する認識や意向を整理・分析し、レガシー創出の対象分野ごとに東京2020大会に向けた取組の現状や課題をまとめている【第3章】。

そして、多摩・島しょ地域の優位性・潜在力・将来展望などに着目し、レガシー創出の対象分野ごとに様々な主要データを交え、中長期的な視点から地域の課題や活用可能な地域資源を分析し、東京2020大会に向けた取組の方向性を導出している【第4章】。

最後に、多摩・島しょ地域において、東京2020大会で創出すべきレガシーとその創出に向けた実践的な取組方策を提案している【第5章】。

---

<sup>(1)</sup> The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games の略語

図表 3 本報告書の構成

第1章 本調査研究の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>• 調査研究の背景と目的</li><li>• 本報告書の構成</li><li>• 調査研究の手法</li></ul>
第2章 多摩・島しょ地域における 東京2020大会開催の意義と レガシー創出	<ul style="list-style-type: none"><li>• 東京2020大会の概要</li><li>• オリンピック・パラリンピック大会とレガシー</li><li>• 東京2020大会に向けた関係主体の取組動向</li><li>• 多摩・島しょ地域における東京2020大会開催の意義とレガシー創出【まとめ】</li></ul>
第3章 多摩・島しょ地域における東京 2020大会に向けた取組の現状 と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 東京2020大会に対する市町村の意識や取組の現状</li><li>• 東京2020大会に対する住民の意識や取組の現状</li><li>• 多摩・島しょ地域における東京2020大会に向けた取組の現状と課題【まとめ】</li></ul>
第4章 多摩・島しょ地域の東京2020 大会に関わる特性把握	<ul style="list-style-type: none"><li>• 地域特性分析の枠組み</li><li>• 分野別の地域特性分析結果</li><li>• 地域特性を踏まえた東京2020大会への取組の基本的な方向性</li></ul>
第5章 多摩・島しょ地域における 東京2020大会のレガシー創出 に向けた取組の提言	<ul style="list-style-type: none"><li>• 多摩・島しょ地域らしいレガシー創出に向けた取組の理念</li><li>• 多摩・島しょ地域で創出すべきレガシーと取組方策</li><li>• レガシー創出に向けた取組の実践方法</li></ul>

### 3. 調査研究の手法

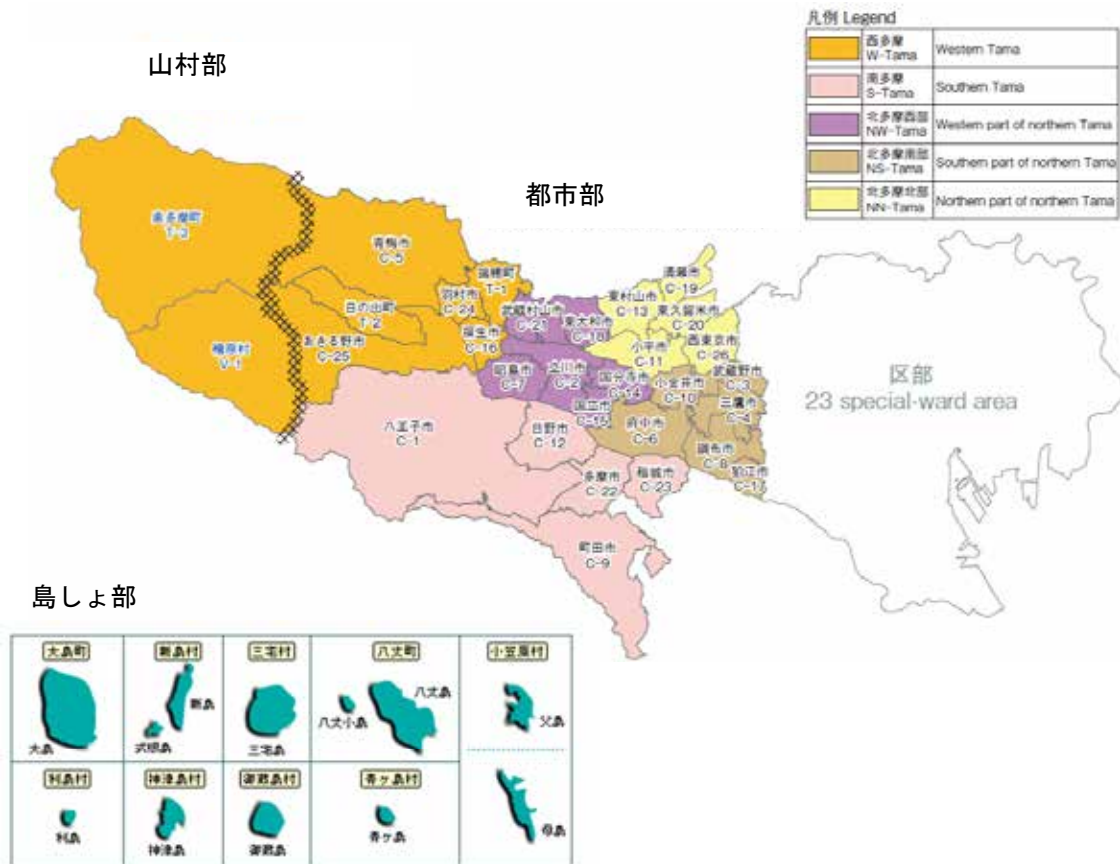
#### 【文献調査】

東京 1964・2020 大会及びロンドン 2012 大会関連文献の調査、関係主体（公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（TOCOG）、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部、国、東京都等）の公開情報の収集、インターネット検索、新聞記事検索等

#### 【統計分析】

多摩・島しょ地域における人口、スポーツ・健康、文化・教育、地域産業等の各分野における基本的な統計データや関連施設の立地状況について情報収集した。また、これらを当地域全体及び東京都市町村企画研究会のブロック区分ごとに分析した【図表4・5】。

図表 4 東京の地勢からみたブロック区分



資料) 東京都「東京の土地利用 平成 24 年多摩・島しょ地域」(2014 年) 及び東京都ウェブサイトより作成

図表 5 「東京都市町村企画研究会」のブロック区分

ブロック	エリア	市町村
第1ブロック	西多摩	青梅市 福生市 羽村市 あきる野市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町
第2ブロック	南多摩	八王子市 町田市 日野市 多摩市 稲城市
第3ブロック	北多摩西部	立川市 昭島市 国分寺市 国立市 東大和市 武蔵村山市
第4ブロック	北多摩南部	武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 小金井市 狛江市
第5ブロック	北多摩北部	小平市 東村山市 清瀬市 東久留米市 西東京市
第6ブロック	島しょ	大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村

**【市町村アンケート調査】**

郵送配布及び郵送・メール回収／多摩・島しょ地域 39 市町村（回答率 100%）＋その他  
首都圏 179 市区町村（回答率 58.9%）

**【住民アンケート調査】**

多摩・島しょ地域在住インターネットモニター1,100 人（多摩地域 1,000 人＋島しょ  
地域 100 人）を対象としたインターネット調査（多摩地域は性別・年齢階層別人口で割付）

**【ヒアリング調査】**

**【平成 27 年度東京都市町村企画研究会 各ブロック正幹事市】**

福生市（第1ブロック）、八王子市（第2ブロック）、国分寺市（第3ブロック）、  
小金井市（第4ブロック）、東久留米市（第5ブロック）、八丈町（第6ブロック）

**【競技開催都市等】**

調布市（味の素スタジアムなど競技会場立地市）

町田市（ラグビーワールドカップ 2019 を含め事前キャンプ誘致に積極的な市）

## 【先進事例調査（文献調査及び電話等によるヒアリング調査により情報収集）】

### 【スポーツ・健康】

- ・昭島市（健康ポイント制度の導入）
- ・金沢市（路面表示による安全・安心な自転車走行空間づくり）
- ・尾道市・今治市（広域サイクリングルートの整備に向けた取組）
- ・山武市（草の根交流を契機としたスリランカ選手団のキャンプ誘致）
- ・田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町（広域連携によるスポーツ合宿誘致）
- ・鴨川市（受入体制の課題やセールスポイントを把握するためのモデルキャンプの実施）

### 【障がい者】

- ・川崎市（「かわさきパラムーブメント」の推進）
- ・所沢市（東京 2020 大会の気運醸成のための情報発信）

### 【まちづくり】

- ・千葉市（「ちばレポ」～市民協働レポート～）
- ・安曇野市（冬期五輪を契機とした植栽活動の継続～アルプス花街道～）
- ・小布施町（官民連携による「オープンガーデン」）

### 【文化・教育】

- ・Make a CHANGE Day 実行委員会（全国一日ボランティアデー「Make a CHANGE Day」）
- ・公益財団法人藤沢市みらい創造財団（「スポーツボランティアバンク」）

### 【経済・観光】

- ・石巻市・女川町・南三陸町・気仙沼市（「ツール・ド・東北 2015」における民泊）
- ・埼玉県（在住外国人による埼玉観光の魅力発信～「LOVE SAITAMA サポーター」～）
- ・東北6県都の商工会議所等（「東北六魂祭」の開催～夏祭りのネットワーク化～）